

朝の食事はパンに切り替えた。なんといっても慣れたものが安心だろうから。イネスさんは和風が珍しく、それを楽しみたいようだが、味覚が違って、おいしいとは感じられないように見受けられた。



板踏絵 荆冠神手のキリスト像。

今日は大磯にある澤田美喜記念館を訪ねることにした。ここは澤田美喜が九州五島列島、天草地方を回って、蒐集した隠れキリシタンの遺物のミュージアムにもなっている。大分の国東半島でペトロ・カスイ岐部の像を見て以来、日本のキリシタンについてもっと知るべきだと痛感した。友人がここを教えてくれたので、2回目の見学となった。

観音像の中に聖母マリアが隠されている仕掛けの物、日常の道具に目立たぬように記された十字の文様、また、礼拝に用いた魔鏡による投影図のキリスト像など、迫害の時代をくぐり抜けた様々なものが展示されていた。もっとも心痛むものは「踏絵」のレリーフである。キリストや聖母マリアの図を踏むことによって、迫害を逃れることができたが、それができない多くの人々もいた。殉教を選んだのである。

戦国時代に宣教師たちがキリスト教と共に鉄砲を日本に持ち込み、日本に大きな変化を与えた。鉄砲や西洋文明を求めた指導者たちがその条件としてキリスト教を受け入れ、また、家来、領民も上の者の庇護があったため、当然のようにキリスト教の信徒となった。これは世界的にどこでも起こったことであつた。真実に信仰に生きた人々もいた。これらの全てを日本人の歴史としてよく知りたいと思う。イネスさんも隠れキリシタンについては始めて知ったとのことで熱心に見学をされた。

お昼に小田原で福住先生と合流した。彼は関東学院大学の同僚であつた。引退後、Goodwill Guide となられ、観光の通訳者を目指しておられる。英語はもとより、ロシア語、フランス語、ドイツ語に堪能なので、小田原観光のガイドをお願いした。奥様もぜひ一緒にとお願いしたので、素敵なお夫人を同行してこられた。奥様は裏千家の茶道、宏道流の生花の免状を持っておられるとのことで、イネスさんにとって最高の同伴者となってくださった。まず、「いけばな諸流展」を覗く。花好きのイネスさんは見とれて大感動。生け花は格式高いものから前衛まで、花の種類は和花、洋花、枝、幹、人工的なものなど、多彩で、また花の香りがいっぱい、見飽きることがなかった。

次に小田原城に登った。ここで戦国時代から江戸時代までの武家、庶民の生活の様子を見ることが出来る。なんといっても小田原提灯が紙製ということで驚くイネスさん。なんの、なんの、家も紙製よ、と笑いながら答える私たち。お城見学の後は茶を楽しむ。お抹茶の飲み方を奥様が説明して下さいました。



最後にイネスさんが薬剤師ということで、福住先生は古い薬局に案内して下さいました。寛永10年(1633年)創業とのことで、400年になる。もともとは漢方薬局。日本独自の薬草は発達しなかった由。江戸時代からの調剤用の器具が並べてあり、イネスさんは興味津々。やはり、同じようなものを使うようであつた。私が驚いたのは、初代がキリシタン大名小西行長の弟であつたということ。当然処刑される運命だったが、禊ぎを経て赦され、関東に所払いとなり、小田原で薬局を開き、以来、脈々と経営されているとのことだ。思わず、ご店主の顔をまじまじと眺めてしまった。温厚な親切な方で、イネスさんの尽きない質問に精一杯答えて下さいました。本当に盛りだくさんの観光であつたが、福住先生ご夫妻の企画で、日本文化の伝統が今も息づいている様子をしっかりと見る事ができた。